日刊

常磐新聞

發行所　常磐新聞社
福島縣平市南町九五
發行人　伊藤隆次
福島縣小名濱古町港一

十一月二十八日夕刊

一ヶ月　三十錢
一部　二錢
廣告料　一行五十錢
場所指定　十錢增
日曜祭日翌日休刊

帝國の御慶事

第二皇子御降誕

廿八日午前七時五十七分第二皇子殿下御誕生遊ばさる
皇后陛下並に親王殿下御順調に渉らせられる
今朝吉電を知るや國民悉く歡喜、直ちに國旗掲揚大内山と御もろ共に帝國の御芽度きを祝ふ。

太平洋戰雲急

小名濱港占領さる？

磐城男子勇躍前進

郡下四十八校二千余名
聯合野外演習

石城郡四十八青年學校生徒名、鹿島校に四三〇名、小名濱校に一千名が分散宿營日及十二月一日の兩日篠山する。
青年學校聯合會長統監のもとに鹿島、小名濱を中心に第二日の攻防戰は東西兩軍機關銃十二挺も參加して實技隊長は前夜中拂曉戰闘に施されるが要する統監命令を受けて西第一日は北軍午前十時半南軍主力（玉川宿營部隊）は前軍午前十時三十分湯本へそれ〳〵到着部隊の編成を行ひ、北軍前十一時半、南軍午後零時半情況を開始、鹿島、玉川間に於て壯烈な遭遇戰を展開して後四時演習終了と共に玉川校に六九〇六時半情況開始、宿營地を出發七時迄に原木田東端に至り西軍第三中隊（鹿島宿營部隊）は前六時情況開始と共に出發、原木田に至り本隊から斥候を派遣するが東軍は前六時半小名濱校に集合して情況を開始、七時より防禦配備をなし陣地備を完了して戰端を開く豫定である、午前九時演習終了後小名濱小學校々庭に於て閲兵分列式を擧行解散する筈である。

玉川村に於ける消防組のもつれ

組頭の進退が注視の的

去る二十六日玉川村消防組幹部會が開催された、言偶々會計報告に端を發し入山の火災の際、慰勞として組頭に金十圓也を贈與せるを組頭自身が頂戴したものと心得へ、會計洩れになつて居つた、某幹部は威丈高になり十圓の金を組頭已人に贈る理由どこにある、組員が盡力したるに對し贈與されたものでその金は消防組のものであると主張し、その意見は勝を制し組員幹部中にもホグレス紐れがあるらしく組頭の進退問題は注視の焦點となつてゐる。尚は副組頭缺員中の處暫定として會計橋本雄吉氏が其堂ある高萩警察氏である。

江名町金成德松氏所有漁船

日康丸出漁中、沖合にて

魚形水雷の頭部を拾得

横鎮に送附して二十圓の謝禮を受く
其金を國防費に献金して感謝狀を受く

江名町金成德松氏所有船日に献金したいと申出た爲め海軍當局として受納する事四尺位の變型のもの流出しつつあるを發見して引揚げ見れば假名にて夕霧と記入してあるより想定して魚形水雷の頭部たる事を知り大切に持歸り早速横須賀鎮守府に送附せし處鎮守府より奇篤の行爲として金二十圓也を船主金成氏に送金して來に、金成氏も國事多端の折柄その金子を懷すべきでないとし鎮守府宛に國防費に献金し感謝狀を受く日康丸は沖合に出漁中、赤色海軍當局になり金成氏には海軍省より感謝狀を送る旨江名町役場に通告があつた。

江名町南町に

千手觀音堂建設

田中家の美擧

今を去る三百年前江名町中田祐一郎家の祖先が四國の觀音様に參詣し當山に移し穴倉を堀り祭つたが年を經るに從い主守する人もなく退廢して居つたが同家の老母八十才が或夜觀音様が枕頭に顯われ虚事變事のあつた事が何れも事實と附合して居るので世帶主は多大の建築費を投じ是れが再興を計つたのを聞きたる同町の女連は各町内に別れ一般から寄附を募集し險阻なる山に石段を造り一般參詣者と便利を計りつゝ落成の上尚真福寺に移管し信行人の家内海上安穩大漁滿足安産の祈願を行ふと子の跡の生れを行ふた。

殺人事件

傷害致死罪で送局

博徒

今朝の八十四才を筆頭で十二才劣りの男女の守本尊である

既報内郷村大字宮字宮澤博徒犯桑原留次郎撲殺事件は加害者吉川幸太郎左脇腹の傷口治り次第來月二日頃檜置する筈、吉川は傷害致死罪として廿六日書類檢事局に送らる。

縣衛生課長
岡部警部
火葬場檢査

福島縣衛生課長岡部警部は廿八日午後一時來小名濱町營火葬場の完成檢査

濱だより

小名濱魚市場調査

魚名	魚獲高	單價
平目	五〇貫	三〇—二五〇
タコ	四五〇貫	五〇—九〇
ハモ	一三〇貫	五〇—八〇
イタ	六〇貫	二〇〇—二五〇
エビ	七貫	一九〇—
鰯	七〇〇〇ケ	二五〇—

◇天氣豫報◇
今晩　晴れ
明日　北東風曇後雨模様
氣壓＝七百七十一粍八

常磐新聞社編輯室

常磐新聞經營者としての泣き言の一くさり——新聞が日刊になつて本月で八ケ月目は正午迄に原稿をまとめの歴史を作つた、其間毎月自動車で送る、晝間は營々々缺損を續け九十の二ケ紙代を御願する事が目的な月は準備金もなくなりどうのである、處が紙代にも足なるのかと心細へ感さい抱りない贊助位で今少し考へしもない、夜分原稿をとて呉れたらなどと心の内に く狀態であつた。
なせ足りないのか、收支がめるとて種のないテヅマはこぼさなければならぬ偉い つかいぬ道理で隨分煩悶する人は澤山ある、その郵送と償はなければ廢したらよかつて切手代がなくて幾日も出らう、誰も頼んでやつてもなければ話は終りだが、自ース を と心を碎く事は毎日分五六十圓の缺損なのだから紙は小さくも新聞紙としの日課を參考迄に書いて泣きたくなる、活版所のての本質を顯現する人後に見る、午前七時の一番自動車に原稿を頼む、それには宵の内午前二時頃迄寢ないで原稿を纒め割付けを造り明朝の仕度をする、第二回目は正午迄に原稿をまとめて自動車で送る、晝間は營々々缺損を續け九十の二ケ月は準備金もなくなりどうなるのかと心細へ感さい抱く狀態であつた。
なせ足りないのか、收支がつかいぬ道理で隨分煩悶する、成可く目新しきニユ ースを と心を碎く事は毎日分五六十圓の缺損なのだから、活版所のだ、元來新聞は金儲けではない、一ッの社界事業でなければならぬ、故に金を得る。
支拂は矢の如き請求、社員とて常然の捧給は支給せわば動けない、社として現在二百の新聞を郵送して居る郵送する事は年に一回か二回は歴訪して年賀廣告なり人格と品位を傷けては新聞人の資格を失する堅き信念の下に精進しつつある。大方各位の支持してやる一の意氣さい持つてもらいれば水火の中も辭せず公平無私報導紙としての本領を發揮し紙は小さくも新聞紙としての本質を顯現する人後に落ちるものではないのである。
る爲めに片時ではいけない公平公器を主義として理想を一歩進めれば指導的精神中に樹つて努力しつゝある。苦しき渝しても盗泉の水を飲まず人格と品位を傷けては新聞人の資格を失する堅き信念の下に精進しつつある。大方各位の支持してやる一の意氣さい持つてもらいれば水火の中も辭せず公平無私報導紙としての本領を發揮し紙は小さくも新聞紙としての本質を顯現する人後に落ちるものではないのである。

告

去る廿二日晩、土木課長歡迎の宴を新米に催した際右足靴を取換へた人がある。御互に迷惑千萬、履違へた方は本社迄御通知下さい秘密に交換して上げます。

常磐新聞社

急告

昭和活版所の新試みとして本年は郵便法施行紀念で各局スタンプ押捺するので私製ハガキ大樂好み各種取揃へて年賀ハガキの御注文をお待ちして居りますと。

現代清酒の眞味は冷酒

肴は乾物（完）

此輕便にて其の消費も容易になる

佐藤壽衛

但し之れはビールの如き大口に飲むものに就てのこと清酒の如き將又葡萄酒の如き比較的小口に飲用するものに對しては格段微温的にも温むる必要を感ぜざるが如くなるも唯從來のカン酒の習慣ある事故、當分過度時代のみ嚴冬の期間丈け極微温に冷めたく感じない程度に温むる事を穿鑿する次第である。

人或は言はん、冷酒飲用は偶然近年の夏季流行にして何等安定的のものにあらずして酒の眞味は依然として カン酒にありと、但し之れは傳統的の習慣に拘はれたるものにして昔の酒質の劣惡なりし時代の遺傳でかる。試みに現代の高精白の原料米を以て精巧なる醸技により醸出せられたる醇酒の金屬タンクに圍はれたるものを喇酒するに冷酒の方が其の酒の天賦の風味を萬喫する事が出來るのであつて之れをカンする時は却つて本來の旨味を沒却するのである。急忙の時勢に處し現代酒の眞味を萬喫せんとせば宜しく虛心坦懷以て舊套を改め時代の趨勢を適應せざる可らず。

既に前述の如く三十年前の日露戰役頃又は明治時代位迄は一般の木香の適當に移りたる古酒を常飲したるものに對しては格段微温も爾來嗜好漸やく轉移、木香の乏しき又は皆無にして若き味のものを一般に賞美するの現況を惹致せるの情勢等に徵する時は遠からざる將來に焉んぞ冷酒の普遍的流行を見ざる事無しとせんや。

既に冷酒の眞味を喫せんとせば勢ひ自ら之れが肴たるべきものも亦從來のカン酒に慣用し來りしものに比し多少其の趣を異にするが如し、然して人々の嗜好にて一定せざるべきも、カン酒には鹽鹽類、刺身類をおとし、然して冷酒には乾海苔、儀助煮類をおとするが如し、如此して清酒大量飲用の時代的要求に應ずることが出來るのである。

森合
齒科醫院
植田町

◇眼科專門
鈴木眼科醫院
本院 植田町
分院 小名濱町古港

酒銘「玉の井」
長瀨彰義釀造
石城郡玉川村

內科、小兒科
婦人科、花病科
久保田醫院
小名濱町
電話二二番

期日は確實に致します
是非御引立を願ひます
ミシン生徒募集
磐城女子洋裁專門學院
平町二丁目二番地

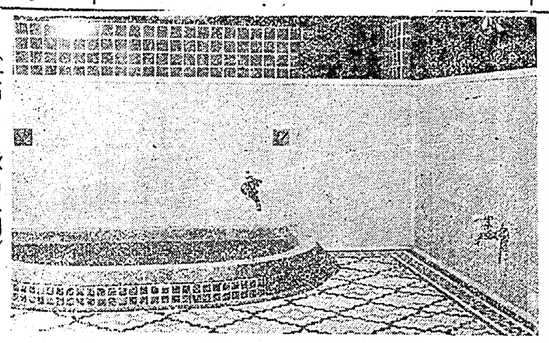
磐城セメント特約代理店
良品廉賣に勝る商略なし
久 釜屋商店
磐城平町五丁目
電話九番九九番
東京振替貯金口座一〇九五六番

石版 活版
捷敏 確精
長瀨芳郎印刷所
磐城平町入口
小名濱中島通り

……の上以酒銘
理研酒
醉雪 壹升壹圓
多少共御試飲願ます
販賣店 加藤屋商店
小名濱中町

難波醫院
醫學博士 難波睦
平町大町七番地

耳鼻喉科專門
小名濱分院
小名濱町中町小學校前
毎週月、水、金、午后五時出診
大和田耳鼻咽喉科醫院
本院 平南町一六（電平一七〇）


（女中さん數名入用）

初秋の小瀧へ!!!
◎宿泊 1.50 2.00 2.50
（御滯在は上記料金にて中食料を含ませます）
◎日歸浴席料 .50
◎自炊料 .50—.80（入場料室料食具料一切）
◎料理—定食 .80 1.00 1.50
（其の他一品料理—洋食）
◎湯効 神經痛•リウマチス•胃腸病•淋疾 婦人病•逆上•中風•脂肪病
（內務省東京衛生試驗所檢定）
◎諸設備 どうきゅう臺•高級ラヂオ•大廣間 讀書室•近代的浴場•洗面所 水洗式便所•小動物園•御子樣運動器具
◎名物 川魚料理（うなぎ•鯉）蜂蜜羊羹 いちご羊羹
常磐線湯本驛下車•小瀧礦泉 電話（小名濱）103番
御旅館 御自炊 瀧の湯

漆器と家具は
平町一丁目 和久井屋
電四〇五番

金屬製諸看板
硝子文字
製作所 ボストン社
小名濱町上横町（大盃內）
金屬プライニシング看板文字可驚安價提供

美味ノ食洋與座御可カ辭
食洋の味趣
鏡十六食定御の
付し通お本一酒御品二
御酒の家
大盃
小名濱町上横町

藥……衛生材料
寶屋藥舗
小名濱町古港
電話三九番